



志民ネット 小栗佳仁

問 (仮称) 幸せになるための教育を考える会議について伺います。

答 子どもたちが自分にか自ら考え実現する力を身につけるために、教育において何が必要か、何ができるかを議論し提言を頂きたいとするものです。委員は有識者や子育て世代の保護者など5名程度を予定しています。

問 新学校給食センターをどのようか考えているか伺います。

答 最新の衛生管理基準に適合した施設に、新たな調理設備として温度、時間など記録が可能な機器や肘まで洗うことができる手洗い設備を導入し衛生管理の向上を図ります。また、季節の食材や地産食材をより多く取り入れるとともに保温機能のあるコンテナや食缶を導入し、より安心安全で美味しい給食が提供できるようにします。加えて、食物アレルギー対応調理室を設置し、食物アレルギーへの対応も向上させていきます。

問 保育ニーズへの対応と保育士の処遇について伺います。

答 令和5年4月に予定している花園保育園の民営化では、0歳児保育の実施と1・2歳児の定員増など低年齢児保育の拡充に加え、市内で最長となる19時半までの延長保育、さらに、市内の保育園等で初めてとなる休日保育を実施する予定です。保育士の処遇については公民格差が生じないよう努めていくとともに、人材の確保に努めていきます。

問 市長公約について伺います。

答 令和4年度ではファミリーサポート事業の充実、夏休みなどの長期休暇中の子どもの居場所づくりの準備、パートナーシップ制度の導入検討、被災地ボランティア派遣事業などのほか、「産業振興会議」など新たな会議体を設置します。今後のビジョンについては、課題を整理し、どのような取組みがベストかを見極め、早期の実現を目指します。来年度以降はさらなるステップアップが図れるよう努力していきます。



維新・半田市民の会 加藤美幸

さらなる健康づくり推進へ

問 新型コロナウイルス蔓延前と感染拡大中の市民の健康づくりへの取組みの変化は、どのようですか。

答 平成30年と令和2年の各分野の変化の状況は、

- ①5大がん(胃・大腸・乳・子宮・肺)すべての検診受診率が低下。
- ②国民健康保険特定健診受診率は、56.8%から55.8%と低下。
- ③メタボリックシンドローム該当率は、25.3%から26.1%と増加。
- ④3歳児子育て家庭の喫煙率は37.6%から31.7%となるも、目標に及ばず。
- ⑤虫歯のない3歳児率は、90.9%から92.3%に改善。
- ⑥健康はんだマイレージ交付者数1140人から556人と減少。
- ⑦自殺者数は、20人から23人と増加。

問 これまでの事業の評価や課題はどのようですか。

答 感染予防に配慮した事業や電話での相談



を行っていましたが、中止せざるを得なかった事業や、がん検診、特定健診の受診控えもあり、健康づくりの機会減少しました。今後いかに改善していくかが課題です。

問 機構改革やコロナの健康づくりをどう推進していく考えですか。

答 令和4年4月より、保健師等の専門職を集中配置し、これまで別々だった若年層への健康づくり、国保特定検診・特定保健指導、高齢者の介護予防等を一課で行います。年齢等に関係なく多面的な視点で、切れ目のない連続性のある健康づくり事業を行う考えです。感染予防にも配慮しオンラインや動画配信にも取組みます。

問 健康づくり市民ボランティアとの協働について考えを伺います。

答 地域において栄養教室や健康体操を実施するなど市民の健康を支える重要な役割を担って頂いています。継続的な活動のための養成講座や活動支援などを行い、今後も連携し市民の健康増進に取組む考えです。



チャレンジはんだ 水野尚美

公共空間の利活用

問 図書館博物館の新たな来館者を増やすため、また人の交流が生まれるよう、共有空間において新たな取組みにチャレンジすることを提案しますがいかがですか。

答 様々な世代の方が集う場所として利用していくことは両館の活性化につながるため、共有空間を利用して何かやりたいとの声があれば、新たな取組みとして検討します。

問 コロナ禍で困っている市内事業者などを支援するため、また、「ごん吉くん広場」周辺の空間を来庁者に憩いの場として活用していただくために、庁舎北側空間の活用について、使用料も含め考えを伺います。

答 以前職員駐車場において、テイクアウト事業を使用料無料で支援したことがあるため、庁舎北側の空間も活用していただけるよう市内事業者の皆様を積極的に支援します。また、「ごん吉くん広場」周辺について



は、もっと魅力ある空間にし、より活用が図られるように努めます。

問 公園駐車場でのキッズカーなどの出店について考えを伺います。

答 公園利用者に支障を及ぼさない範囲でキッズカーなどを出店することは可能であり、出店していただける方に向けて積極的にPRします。

問 公園の立地と特性を活かし、人が交流しながら楽しく過ごせるよう、市民と共に新たな憩いの場を創ることが提案しますがいかがですか。

答 公園の活用は多くの可能性を秘めていますので、新たな発想による利用方法について、利用する方の意見も伺いながら共に考え、今後も公園をより有効利用していただくよう取組みます。

問 公共空間の有効活用、協働のまちづくり促進のため「公共空間使用ガイド」の作成を提案しますがいかがですか。

答 利用者目線に立ち、公共空間が一層活用されるようにすることは、市民協働の推進という点からも重要なため、半田市版の「公共空間使用ガイド」を上半期中に作成し広報します。

